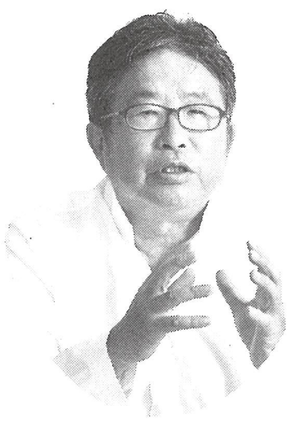
兵肢協会報

発　行　所
〒651-0062
神戸市中央区坂口通２丁目１－１
兵庫県福祉センター内
兵庫県肢体不自由児者協会
TEL 078-241-9907
FAX 078-241-9908
E-mail:hyoshikyo@nifty.com
URL:http://hyoshikyo.d.dooo.jp

一級建築士として大臣表彰



一般財団法人兵庫県肢体不自由児者協会　理事
有限会社アークスコーベ　代表取締役
石丸信明

このたび、令和七年度「障害者自立更生等厚生労働大臣表彰」を賜りましたことは、一級建築士として歩んできた私自身の職能が、福祉という尊い分野において少しでもお役に立てた証左かと、身の引き締まる思いでおります。この受賞は、私個人の力によるものではなく、長年にわたり活動を共にしてくださった兵庫県肢体不自由児者協会の皆様、そして何より、日々の暮らしの中で切実な声を届けてくださったご家族の皆様と共に分かち合うべきものと考えております。

私と協会との関わりにおいて、原点となっているのは「療育更生相談会」における住宅相談の場です。建築士の仕事は通常、更地に新しい建物を建てる、あるいは古い建物を再生することに主眼が置かれます。しかし、相談会という限られた時間の中で出会う方々が求めていたのは、単なる「新しさ」や「意匠の美しさ」ではありませんでした。「車椅子で円滑に移動したい」「介助者の腰への負担を減らしたい」「子どもが自立してトイレに行けるようにしたい」――。そこにあるのは、切実な生活の課題であり、建物が解決すべき「生存のための切実な実行」への希求でした。

今でも忘れられない光景があります。ある相談会で、重度の障害のあるお子さんの将来を案じるご両親に、住宅改修の相談をしたときのことです。それまでは「家は不便で当たり前、我慢するもの」と諦めていたお母様が、図面を見ながら「これなら、この子も自分の力で窓の外を眺められるかもしれませんね」と、一筋の希望を見出された瞬間の表情です。建物をもう一度見直すことで、ご家族の心の重荷を軽くし、日常に光を灯すことができる。その事実は、私にとって何物にも代えがたい学びとなりました。

肢体不自由児者のいる家庭にとっても、住宅は単なる雨風を凌ぐ場所ではありません。それは、社会との接点であり、身体機能の一部とも言える「環境の延長」です。段差をなくす、手すりをつけるといったハード面の整備はもとより、家族が互いに視線を感じながらも、プライバシーを保てる距離感の設計など、心理的なバリアフリーも極めて重要です。家の中にほんの数センチのゆとりがあれば、それが家族全員の心のゆとりへと繋がっていきます。

さらに最近では、住宅単体だけでなく「移動」を含めた生活動線全体、つまり「車の世界」を再度見直す必要性を感じています。住宅と車の運用を一体のものとして考え直すことで、外出時の移乗や通院の負担を劇的に軽減できるのではないか。住まいとモビリティがシームレスに繋がる環境づくりが、ご家族の負荷を減らす鍵になると、今まさに思案を深めているところです。

兵庫県肢体不自由児者協会の活動は、こうした個々の家庭の悩みを、地域全体、あるいは社会全体の課題へと押し広げる大きな力を持っています。個別の相談から得られた知見を蓄積し、それをより良い制度作りや環境整備へとつなげていく。その一翼を担わせていただけることは、建築士冥利に尽きる喜びです。この協会が長年培ってきた「当事者主体の支援」という精神こそが、真の共生社会を実現するための道標になると確信しております。

今回の表彰は、ゴールではなく、新たな使命へのスタートです。今後は、建築の専門家としての知見を活用し、福祉の現場と社会をより密接につなぎ、障害のある方々の自由と尊厳を支える次なるアクションを作っていきたいと考えています。これまで培ってきた経験を、より広い社会の仕組みへと還元し、誰もが自分らしく暮らせる未来を設計していくことが、私の新たな決意です。

最後になりましたが、本会を支えてくださる皆様のたゆまぬご努力に深く敬意を表しますとともに、会員の皆様のご健勝と、ご家族の穏やかな日々を心よりお祈り申し上げます。